

令和6年12月11日、西南学院大学にて、講義を行いました。

「国際情勢認識と日本外交の展望」をテーマに、「外交青書」に記載の内容に沿って、具体的な事案の紹介を交えながら解説しました。



参加学生の感想

- ロシアのウクライナ戦争、トランプ政権、ガザ問題、韓国の戒厳令など国際情勢が急激に移り変わっていく時代の中で、日本の果たすべき役割、立場が分かった。
- 最近を意識していませんでしたが、中国や韓国、北朝鮮、ロシアなどの領土問題は昔から今も続いているものであり、早急に対応したくても対応できない難しい部分があると再認識できた。
- 外務省での職務にすごく関心を持った。わたしは今、公務員試験に向けて勉強を頑張っており、国際関係法学科に所属しているので講義での学びを活かしつつ、外務省の総合職や専門職に挑戦できるレベルまでもっていけるようにこれからも勉強を頑張ろうと思う。
- 今回外交という日常ではすごく難しいお話をいただいた。国と国の繋がりをうまく持つことは簡単なことではないが、経済の発展や平和を、守るためにはかかせない部分であるため、これから互いの文化であったり、考え方を尊重することであったりが重要であるように感じた。
- 私がこれまで得ていた知識では、日本の外交力は影響がなく、世界的に批判されるのは当たり前なのかもしれないとネガティブな意見を持っていた。しかし、本講義を通して、他国から感謝されていることを知ることができて嬉しくなった。また、最近では選挙などもあったが、その際に外交力はあるかという目線で見られることを重視しておらず、自身の認識不足を改めようと考えることができた。